

センバツ出場の壮行式で「平成の歴史に名を刻む」と力強く語る武岡主将



見方は第3社会面に



奥T画
東N動



第91回選抜高校野球大会(センバツ)に出場する八戸学院光星ナインの壮行式が8日午前、八戸市の同校体育館で開か

「平成に名を刻む」

光星ナイン センバツ壮行式

れ、選手たちは全国制覇の悲願達成を誓った。光星がセンバツに出場するのは3年ぶり10回目。堂々と入場行進した選手らを、1、2年生と教職員約600人が拍手で迎えた。小野崎龍一校長は「紫紺の優勝旗はもう手に届くところにある。君たちならできる、成し遂げられると確信している」と激励した。仲井宗基監督は「出場10回目の節目、そして平成最後の節目である今大会。学校、青森、東北の代表としてふさわしい試合をする」と意気込みを語った。

武岡龍世主将は「平成の歴史に名を刻む」と力強く語った。副主将の下山昂大選手(弘前四中出)は取材に「地元の友達や仲間など多くの人に恵まれて出場できている。甲子園で全力を出し切り期待に応えたい」と張り切っていた。組み合わせ抽選会は15日に大阪市で行われる。ナインは11日朝に八戸市を出発し、12日から練習試合をこなすなどして初戦に備える。センバツは23日から12日間、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で行われる。(高松拓輝)